

Kitakyushu Foreign Trade Association

GLOBAL VIEW

2023AUTUMN No.66

北九州貿易情報「グローバル・ビュー」2023年・秋号

- 言志私録 ● 『DXの進化』 山九株式会社 執行役員九州エリア長 日野 千博 1
- 会員紹介 ● アースディスカバリー株式会社 2
株式会社 リョーワ 4
- 事業紹介 ● 「Kitakyushu Food Fair」を開催しました。 6
- ジェトロ ● メールマガジン配信サービス 8
- ニュース ● アジア経済情報 9



Kitakyushu Foreign Trade Association

北九州貿易協会
社団法人



山九株式会社
執行役員九州エリア長
日野 千博

『DXの進化』

部屋でくつろいでいるとき、ふと、そういえばこの部屋には、本や冊子がほとんどないことに気づき、昭和の時代を回想していました。この時代には、電話帳、辞書、辞典、地図、広辞苑、家庭の医学といったもので本棚が埋められており、それらがすべて携帯電話の中に取められているという事実気づき、昔を懐かしみながら今の利便性というものについて考えてみました。

私が入社した時は、携帯電話という物は存在しておらず、現場の職人さんと工事の打ち合わせをするときは、一旦現場に行ってしまうと、もう連絡手段が絶たれるため、たっぷり時間をかけ『正確に伝える』『伝えたことを理解してもらう』ことに重点を置いており、使用資機材の準備や重機手配や他社との工程調整なども前日までに確実に終わらせておかなければ、職人さんたちの仕事を止めることとなってしまい、ミスが続くと『使えないやつ』と思われ、信頼そのものを失ってしまうため、日々緊張し続けていた時代でした。

最近の現場のミーティング風景を見ていると、短時間で要点だけを伝え、何かあれば携帯電話で連絡するという形に変わってきています。携帯電話があれば、現場で不測の事態が発生した際も、どこにしようがすぐにその情報が入ってきて、即座的な動きができるようになってきており、一人で管理できるスパンも格段に増えてきており、DXの進化がもたらした効率は計り知れないものがあると思っています。

現在は、人工知能である『AI』に更なる効率化を期待する動きがありますが、どのような活用が正しいのかを考えなければならない時期にもあると思っています。『人間の作業をAIで監視するのか、AIの作業を人間が監視するのか』この対極の考え方が非常に大切であると思っており、実務経験をしていない人間が果たして、AIに対して評価できるのか？という素朴な疑問です。

先程の『伝える力』は、昭和の世代と今の世代の差は本当はないのか。漢字は読めるが書けなくなっている事実は、能力の退化であり、この先は、退化しても良いスキルと、少々不便でも維持し続けていかなければならないスキルというものを考えなければならない時代になってきているのではないのでしょうか。

日野 千博



「佐藤一斎 像」
渡辺崋山 筆

当ページの由来となった「言志四録」は、江戸時代後期、儒学の最高権威と崇められた「佐藤一斎」が40数年の歳月をかけ記した語録。小泉元総理が、審議中に「言志四録」についてふれ、知名度があがる。現代にも通じる指導者のためのバイブル的存在。

(参考:ウィキペディア)

アースディスカバリー株式会社



Earth Discovery

日本の輸出から中国への輸入、 その後のプロモーション、 現地販売まで取組む地域商社です。

アース: 将来は世界中の方々と取引ができることを目標に、ディスカバリー: 好奇心や挑戦を続けることがとても大切との意味を込めて2018年に設立いたしました。

中国現地法人は当て字になるのですが愛を運ぶとの意味合いで多くの人に愛される会社でありたいと思い愛仕達大連国际贸易有限公司と名付けました。

事業概要や特徴、強み

中国を中心とした輸出事業(一般貿易、越境EC)、をメインに基本的には黒子的な立場で、企業をサポートする側にいます。食品については、成分、添加物、商標などリスクをなるべく回避しながら海外展開できるようにアドバイスをしています。

弊社の強みは、企業様の思いに寄り添い、迅速に中国進出を切り開けることができることです。中国に子会社を設立し、日本料理店、日系スーパー、高級スーパー、越境EC等のチャンネルに多様な日本商材を卸しているからこそ、バイヤーの買いたい商品のみならず、企業の売りたい商品を小ロットからでも、中国市場での展開を最優先にすることができます。

中国市場は日進月歩、リスクを抑えながら市場のリアルな意見を取り入れ、さらに改善して市場にあう商品ができることを重要視しています。弊社は企業様の商品を輸出から中国での輸入、展示会出展、プロモーション販売、フィードバックの共有、商品戦略改善等の一連業務を全力でサポート致します。同時に企業様の思いをしっかりと理解したうえで展開いたしますので、変なイメージや悪評がつかないように気を付けています。加えて、スピード感を持って根気よく積極的にチャレンジすることを心掛けています。

中国事業で苦労したこと

近年の場合ですとコロナ禍の輸出入が一番苦労いたしました。

例えば、コロナ禍の輸出では、冷凍食品に新型コロナウイルスが付着している可能性があるとのことから、急に冷凍品の輸入規制が厳しくなり、弊社の冷凍貨物1箱ずつ全てに消毒液をかけたPCR検査をしたり、検査が厳しく中国側が輸入するのが大変難しいと言われていました。その中で、弊社は輸出から輸入まで行っておりますので、物流の流れを細分化し、どこが一番問題(面倒)であるかを確認し、その関係先へ常に連携を取りながら対応しておりました。そのため、コロナ禍でも通常通りに輸出入ができており、積極的に中国で展開をすることができました。

国が違う海外では不測の事態も想定されますので、日本と同じ環境ではないことをよく理解しておき、臨機応変な対応が求められるかと思えます。



APITA上海 販売状況



Ole'高級スーパーでの販促活動



高級デパート上海 イベント



らぼーと上海 イベント

中国におけるアドバイス

中国市場への展開をご検討であれば、これからは差別化できる商品をお勧めいたします。現在では越境ECでも日本商品が買えるため、ほぼ日本の商品は揃っている状況にあります。

●差別化できる商品

例えば、弊社は主に冷凍の和菓子を中国で展開しております。和菓子を通じて日本の文化や伝統を伝えることができることから、体験へと繋げる戦略をとっています。和菓子は既に特徴的な商品ですが、さらに抹茶、お茶、装飾、文化の要素を取り入れることで、より一層「日本っぽさ」が際立ち、大変好評を得ています。

●高品質からの脱却

良い原材料やこだわりの物、独自製法や技術を使用し高価格帯の富裕層向けの商品は、日本で有名なブランド以外では、地道なPR活動(ブランディング)が必要となります。それよりも、少しグレードを下げた商品で多くの方に手に取って買ってもらえる方がより市場が理解できるかと思えます。

●マーケットに合う商品開発

まずは、日本で販売されているものが海外で輸入できるのか(できなければ成分等変更)、輸入ができれば市場の反応を見ることはできます。味なのか、見た目なのか、価格帯なのか中国は地域によって様々な反応があり、そこから課題が見つかりますのでそれぞれの市場に合う商品へリメイクしていくことをお勧めいたします。

●現地でのPR活動

販路拡大に伴い現地での販促活動は欠かせません。展示会等の情報はJETROや自治体から海外展示会情報などが掲載されています。まずは、現地での反応を見るのは展示会をお勧めしておりますが、自社で難しい場合はパートナー企業へお願いするかと思えます。自社の商品をしっかりとPR営業してくれるかどうか、どれだけやる気があるのかなどしっかりと確認して下さい。弊社は、展示会はもちろん、弊社商品を販売している日系スーパー、高級スーパーで催事を行い販促活動イベントをしております。店舗側も喜んでいただけますし、win-winな関係になるので、今後のお取引の拡大にも繋がります。

今後の取組みについて

ニュース等で話題のALPS処理水の放出直後に、中国政府から【日本の水産物輸入全面停止】という正式発表があり、水産品以外にも日本食品を取り扱う企業は放射性物質が付着していないか、製造地、産地に偽りがなく厳しく検査され、輸入が厳しくなっておりますが、個人的には、またか…という程度で、これから収束にむかっていくかと思っております。重要なことは、現状の課題の確認とその解決策をしっかりと考えることにつきます。弊社は8月28日から30日まで中国で「SIAL深圳2023」という食品の展示会に出展しておりました。試食をしている中で、どこ産なの？放射能の影響はどうか？という質問はありましたが、日本の食品が危険なのか食べないのか非買運動のようなことはありませんでした。通常通りの展示会で、危機感をもつような印象はありませんでした。

海外展開は簡単にできるものではありませんが、海外への一歩はためらわず行動することです。色々課題が出てきますので1つ1つ解決して、諦めない気持ちを持ち続けることが大事です。そのような方々のために弊社は現地でも積極的に活動しております。これから市場調査を検討している企業様、中国での販路拡大に関心を持つ企業様を歓迎しております。市場への動向や販売戦略に関するご要望がございましたら遠慮なくご相談ください。

お問い合わせ先

アースディスカバリー株式会社

〒802-0001 北九州市小倉北区浅野3丁目8-1AIMビル6F 218号室

HP : <https://earthdiscovery.co.jp/>Email : s_fujita@earthdiscovery.co.jp

広州日航ホテル イベント



SIAL深圳2023 ブース

株式会社 リョーワ



株式会社リョーワは今後もDXを推進し、
更なる発展を目指します！

当社は、1968年に創業し、1973年に法人化、設立以来、油圧に特化したビジネスを行っています。油圧は工作機械、産業機械などの幅広い分野で機械の駆動源として使われ、当社は産業機械の油圧メンテナンスや配管工事、油圧機器の販売・修理を手掛けています。自動車、自動車部品、化学、食品など様々な業種の国内外約1,600社とお付き合いをさせて頂いています。

10年ほど前からは製造工程の各種部品の目視検査を自動検査に代替する外観検査装置の設計・製造に取組み、現在は自社オリジナルのAI画像処理システムの開発も行っています。

事業変革について

DX(デジタル・トランスフォーメーション)には、デジタル化と変革の2つの意味があります。当社はDXという言葉がまだ流行していない10年ほど前から、事業変革の延長線の中でデジタルを活用した変革を行うようになりました。

はじめて事業変革の必要性を感じたのは、1997年に油圧メンテナンスで取引のあった大手半導体メーカーの担当者から「当社は油圧の機械が無くなる」という一言でした。油圧には、精密で円滑な動きが可能、高温など環境の悪い場所でも使用できるといった長所がある一方、電気消費量が多い、油漏れがある、騒音が多いなどの短所があります。1996年にISO14001が制定され、環境保護や省エネの声が高まる中で、少しずつ駆動源が油圧から電動に置き換わるようになりました。加えて2010年頃より「人口減少による日本市場の縮小」という問題が取り上げられるようになり、当社の祖業である油圧ビジネスが今後縮小し、将来的に事業が成り立たなくなるというリスクが顕在化しました。

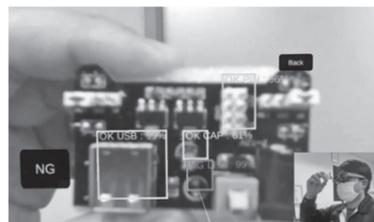
そうした中で中途採用した社員が、たまたま電子部品の表面を検査する外観検査の技術を有していて、ある企業から「外観検査を自動化する装置を製作できないか」という相談がありました。私自身、電子部品メーカーに過去在職し、検査業務で大変苦労した経験があったこともあり、その装置のニーズの高さを実感し、すぐに事業化することにしました。「油圧事業以外に将来性のある新事業を立ち上げ、例えば油圧が赤字になっても、日本に油圧機械が1台でもある限り油圧事業を続けよう」。これが外観検査事業をはじめたきっかけです。

その後2013年、ドイツで「インダストリー4.0」が発表されました。インダストリー4.0の中核となる考えが、サイバーフィジカルシステムです。実世界(フィジカル空間)にある多様なデータをセンサーネットワーク等で収集し、仮想空間(サイバー空間)で大規模データ処理技術等を駆使して分析・知識化を行い、そこで創出した情報・価値によって、産業の活性化や社会問題の解決を図っていくというものです。私は将来このインダストリー4.0が中小製造業の切り札になると考え、2015年に北九州市立大学大学院のMBAの門を叩き、インダストリー4.0を研究することにしました。

インダストリー4.0に注目した理由は、ベルリンの壁崩壊後に経済が低迷し『欧州の病人』と言われていたドイツが、2013年頃には『欧州の優等生』と称されるほどに回復し、そのカギを握っていたのが中小企業といわれていたからです。加えて、インダストリー4.0を提唱し、先駆的に取り組んでいたバーデン・ヴュルテンベルグ州の産業構造が、北九州市の産業構造に非常に似ていたのです。ドイツに4回訪問し、現地の中小製造業から多くのことを学びました。

インダストリー4.0を研究することで、「油圧の修理屋からAI企業へ」を実現する当社の将来戦略を構築することができました。これが当社の事業変革、DXのベースとなっています。

また、タイは日本同様、少子高齢化による労働人口不足が問題となっていたので、外観検査を自動化するニーズがあると考え、タイで現地企業と代理店契約を締結し、タイ市場への拡販にも取り組みました。残念ながら代理店との信頼関係をうまく構築できず契約を解消しましたが、タイに魅力的な市場があることに気づくことができました。



MR(複合現実)を活用した部品検査

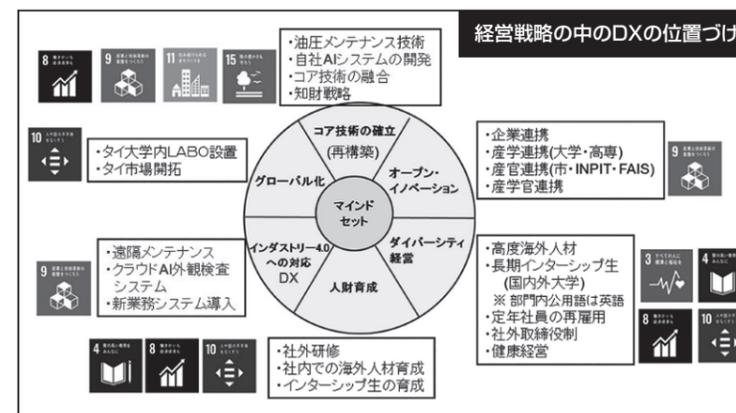


スマートフォンを活用した員数検査

DXの取組について

当社はDXという言葉にとらわれず、色々と取り組んでいます。Githubによる開発環境の改善、対話型AIを活用した開発の効率化、新業務システムによる業務の効率化、サブスクリプションでのサービス提供、ディープラーニングのクラウド化、スマホ・MR(複合現実)での低価格なクラウドAI外観検査システムの提供などです。

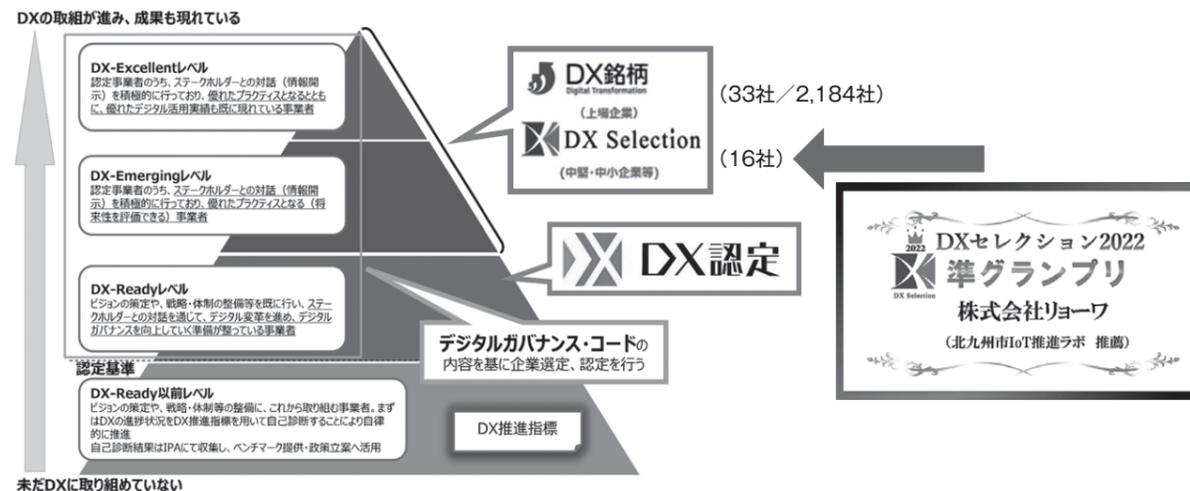
自社AIシステムは、タイの大学から採用した高度海外人材が担っており、結果的にシステム開発部門内は英語が公用語になっています。これは一例ですが、外観検査システム事業は、祖業のメンテナンス事業と比べ社内の雰囲気異なります。DXを通して組織文化そのものが変化してきました。



DXセレクション選定について

DXセレクションとは、経済産業省がDXに取り組む中堅・中小企業等のモデルケースとなるような優良事例を選定し、中堅・中小企業等におけるDXの推進並びに各地域での取組の活性化につなげていくことを目的として、2022年に開始した取組です。

当社は、2022年に経済産業省から「DXセレクション」の準グランプリに選定して頂きました。これまでの取組みが、経済産業省が策定した「デジタル・ガバナンスコード」に沿ったものだったためだと推測しています。



今後の抱負

AIを活用した外観検査は、初期導入コストが1,000万円ほどかかります。それでは、大手企業はともかく、中小企業が導入することは困難です。中小企業でも導入可能な低価格な外観検査システムをサブスクリプションで提供し、中小企業へのAI外観検査システム導入に寄与したいと考えています。

また、メンテナンス事業と外観検査システム事業は独立した事業となっています。今後は両事業のシナジー効果を生み出せるよう、現在のシステムを発展させ、遠隔メンテナンスシステム、予知保全システム、最終的には中小企業向けものづくり支援プラットフォームを開発し、北九州地域の中小企業の生産性の向上に努めていきたいと考えています。

将来的には、現状のタイ人社員をコアメンバーとして、タイでのサービス開始も検討しています。



AI開発を担うタイ人社員

米国オレゴン州の 日系スーパーマーケット「宇和島屋」で 「Kitakyushu Food Fair」を開催しました。

世界的な日本食への関心の高まりを受け、北九州市は、地元加工食品関連企業の海外販路拡大支援を目的に、商談会の開催などを行ってきました。こうした活動を経て、米国の日系スーパーマーケットと市内企業等との商談が成約し、米国オレゴン州の日系スーパー「宇和島屋 ビーバートン店」(宇和島屋 <https://www.uwajimaya.com/>)において、「北九州フェア (Kitakyushu Food Fair)」を開催しました。

6月28日(水)から7月11日(火)までの14日間、特設コーナーを設けて開催したフェアでは、市内企業等12社が製造・販売する北九州市の特色ある食品を販売しました。

12社中2社(株式会社のぼる、株式会社カワカミ)は渡米し、開催期間中の6月30日(金)から7月2日(日)までの3日間、現地にて試食販売を行いました。



■ 出品品目 12社71品目

おはぎ、おにぎり、焼うどん、醤油、ドレッシング、
みそ類、菓子(焼き菓子、飴、チョコレート)、漬物、飲料等

試食販売を行ったおにぎり(3種)、おはぎ(5種)、焼うどんは、来店する多くのお客様に大変好評で、おにぎりとおはぎは3日間で完売し、麺・ソース・かつお節がセットになった焼うどんは、セットを買えば家庭で作られることが受け、好調な売れ行きとなりました。



今回フェアを開催したビーバートンは、ポートランドの12Km西方に位置する、人口約97,000人の都市で、人口の12%がアジア系住民です。

宇和島屋ビーバートン店でも日本の商品を始め多くのアジア系食材を取り扱っていますが、来店するお客様はアジア系の方だけでなく多様性に富んでいて、その多くの方が北九州の商品に関心を示していました。

また、北九州フェアはビーバートン店スタッフにも非常に好評で、試食販売終了日には、店長から「来年もぜひビーバートン店で北九州フェアを開催してほしい」とのご意見をいただきました。

今回のフェアが、市内加工食品事業者様の今後の米国での販路開拓につながるよう引き続き各種事業を展開して参ります。海外への販路開拓をご検討の際は、スタートアップ推進課までご連絡ください。

カリフォルニア州のコメ事情

カリフォルニア州では、2020年以降、雨・雪の量が記録的に少なくなっており、水不足が深刻な状況となっています。加えて、カリフォルニア州の水資源のひとつであるコロラド川では、近年、水量が減少し続けており、将来的な水不足に対する不安材料となっています。

2022年5月には、カリフォルニア州知事が水道事業者等に対して水の使用を削減する努力強化をよびかけ、さらに同年6月には、同州水資源局が一部の農地所有者などに州最大の地表水源からの引水を禁止する命令を発令(注1)。このような状況を踏まえ、コメ農家の間では灌水量が少ない作物に転作する農家が増え米の作付面積が減少し、カリフォルニア米の価格が高騰しているとのことです。

翻って日本の状況を見てみると、農林水産省が発表する「コ

メ・コメ加工品の輸出実績」によると、日本から米国への商業用米の2022年の輸出量は対前年比で約2倍となっており、米国のコメ事情が日本の輸出に影響を与える形となっています。

こうした中、米国農務省は今年5月、2023-2024期の国内コメ生産量は増加となり、干ばつによる減産は回復し流通価格も低下するとの見通しを発表しています。これは、昨年末から今年1月にかけてカリフォルニア州で発生した記録的豪雨により作付面積が拡大したことが原因のひとつとなっていますが、一方で、長雨による種まきの遅れや燃料価格の上昇といったこともあり、今秋は急激な価格減少にはつながらないとの見方を示す日系食品メーカーもいるとのことです。(注2)

今後も、国内事業者のビジネスにも影響する米国のコメ事情が気になるところです。

(注1) ジェトロ・ビジネス短信「米カリフォルニア州、干ばつで農地などへの引水禁止を命令」(2022.6.13) <https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/06/2640cf837214e964.html>

(注2) 同「米農務省がコメ作付け動向レポート発表、コメ生産量は急回復の見込み」(2023.5.25) <https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/05/f0177aeaa76254d0.html>

カリフォルニア州のスーパー

今回の渡米にあわせて、カリフォルニア州の日系、日系以外のアジア系、および米系スーパーを視察しました。

日系スーパー

菓子類、調味料、惣菜など多岐に渡って日本食が豊富に取り揃えられている。書店や化粧品店など日本のレストランやショップが入店している店舗や日本の地方フェアを開催している店舗あり。



TOKYO CENTRAL



Mitsuwa Marketplace



日系以外のアジア系スーパー

それぞれの国の商品が一番多いが、日本の食材も多数販売されている。日本国内販売と同様のパッケージ、あるいはラベル貼付による英語併記が多い。



H Mart (韓国系)



99 Ranch Market (中華系)

米系スーパー

現地の独自スタイルの日本食惣菜あり。日本の調味料や麺類もあるがパッケージ自体が英語で作られている。日本食はアジア系コーナーで販売。



Ralphs



Sprouts Farmers Market



ジェットロのメールマガジンをご存じですか？

メールマガジン配信サービス

貿易・投資、知的財産権に関する情報や、展示会・セミナー等のイベント情報等、国際ビジネスに欠かせない各種最新情報を定期的にEメールにてお届けするメールマガジン配信サービス。

- ① 特定国・地域に関するビジネス情報を配信してほしい。
- ② 貿易投資や知的財産権に関する情報を配信してほしい。
- ③ 最寄りのジェットロ国内事務所が実施しているイベントを案内してほしい。

こんなときに70以上のメールマガジンからお選びいただけます。
 会員皆さまのビジネス活動や情報収集の一助としてぜひご活用ください。



配信メールサンプル

見本市・展示会情報メールマガジン
「J-messe News」

★★★ 見本市・展示会情報 メールマガジン *****
 J-messe NEWS (Vol.476) 2023年4月17日
<https://www.jetro.go.jp/ji-messe/>
 ***** 海外展開支援部 JETRO ★★★

— INDEX —

▼出展支援・商談会情報▼
 ○ジェットロが参加する展示会の出品者、商談会参加者を募集○

【1】 <締切間近> Alibaba.com 出展支援プログラム (新しく出展の企業向け)
 【2】 <締切間近> 2023年度 ジェトロ 中国ハイブリッド型キャラバン
 【3】 北米最大規模のテック系スタートアップの展示会「Collision2023」(トロント)
 【4】 アフリカ最大級のヘルスケア分野展示会兼カンファレンス「Africa Health ExCon 2023」(カイロ)

▼見本市関連トピックス▼
 ○ジェットロWEBサイトより見本市関連トピックスをご紹介します

【1】 見本市関連ニュース
 ◇米食品見本市「バー・アンド・レストラン・エキスポ」開催、ジェットロはジャパンパビリオンを初出展
 ◇第44回バンコク国際モーターショー、成約数は前年比35.5%増 (タイ)
 ◇世界最大級モバイル展示会「MWC 2023」開催、スタートアップイベントに日本から16社参加 (スペイン、日本)
 【2】 国際ビジネス情報番組「世界は今-JETRO Global Eye」
 「ナイジェリア人の心をつかめ！」- 講演会で人気だったものは！？ -
 【3】 ジェトロ活用事例- 世界に挑む中小企業「渡邊製本株式会社」(東京都荒川区)

どなたでも無料でご購読

ものづくりを世界へ
-ジェットロ機械・ハイテク産業関連情報-

2021年8月24日号

ものづくりを世界へ
 -ジェットロ機械・ハイテク産業関連情報-
<https://www.jetro.go.jp/industry/top/machinery/>

◇◇ CONTENTS ◇◇

1. 【Webセミナー】 ローカル企業に聞くポストコロナのマレーシア医療機器市場動向
 2. 【Webセミナー】 インド工科大学ハイデラバード校との産学連携交流会
 3. 【支援サービス】 始動Next Innovator 2021 公募開始しました
 4. 【Webセミナー】 英国市場における水素・燃料電池関連産業の動向と進出可能性
 5. 【Webセミナー】 拡大する洋上風力発電市場に参入する方法

— 1. 絶賛募集中！ —
 【Webセミナー】 ローカル企業に聞くポストコロナのマレーシア医療機器市場動向
 <締め切り：2021年9月3日(金) 17時00分>

JETROでは、マレーシアの医療機器市場の現状と動向について、ローカル代理店企業の視点も踏まえて、今後、特に注目される分野 (IT、高齢者福祉) を中心にご紹介するウェアセミナーを開催することになりました。
 奮ってご参加いただければと存じます。
 ▼事業の詳細はこちら
https://www5.jetro.go.jp/newsletter/kualalumpur/2021/medical_seminar_9.7.pdf

— 2. 絶賛募集中！ —
 【Webセミナー】 インド工科大学ハイデラバード校との産学連携交流会
 <締め切り：2021年9月3日(金) 23時59分>

インド高度人材獲得を目的とした採用イベント「JAPAN DAY」にて、産学連携交流会を実施いたします！インド工科大学ハイデラバード校の研究室との交流を通じ、当学との共同研究や長期的な人材確保、そしてインドへの事業展開のきっかけを得るチャンスです。下記HP Day1 プログラム直下の「Apply Now!」よりお申込み下さい。
 ▼事業の詳細はこちら
<https://www.jetro.go.jp/en/events/iitthiapanday2021.html>

地域別・産業別にもお届けします

登録はこちらから
<https://www.jetro.go.jp/mail/list.html>



お問い合わせ先
 日本貿易振興機構 (JETRO) 北九州貿易情報センター
 TEL: 093-541-6577 MAIL: KIT@jetro.go.jp

アジア経済情報

～「北九州貿易協会ウィークリーニュース」より～

■北九州貿易協会ウィークリーニュースとは

「北九州貿易協会ウィークリーニュース」は、(株)エヌ・エヌ・エー (<http://www.nna.jp/>) の提供するアジアのビジネス情報、北九州市の海外事務所(大連)からの現地情報、国内外の経済情報、各種展示会情報などを満載して、毎週月曜日に北九州貿易協会会員の皆様にメール配信しています。

ベトナム 2023.8.31

レアアース開発、外資が拠点 中国リスク懸念、政府も本腰

レアアース(希土類)で世界第2位の埋蔵量を誇るベトナムに外資企業が熱い視線を注いでいる。レアアースは中国が主要生産国だが、米中対立を背景に両陣営で重要資源を囲い込む動きが強まっており、リスクヘッジとしてベトナムに生産拠点を新たに開設する動きが広がっている。世界的な需要の高まりを受けて、政府もこのほどレアアースの採掘量を引き上げる長期計画を発表するなど開発に向けた動きが本格化している。

米地質調査所(USGS)によると、ベトナムのレアアース埋蔵量は推計2,200万トンと中国に次いで世界第2位で、世界の総埋蔵量の約18%を占めている。2022年のレアアース採掘量は前年比10.8倍の4,300トンに伸び、世界第6位となった。政府は今年7月にレアアースや鉱物資源の長期開発計画を発表し、レアアースの加工前の採掘量を30年に年間202万トンに引き上げる目標を盛り込んだ。

急増の背景には、レアアース調達における中国への依存度を軽減する世界的な動きがある。米中の貿易摩擦などをを受けて、中国は今年8月から半導体素材となるレアメタル(希少金属)のガリウムとゲルマニウムの輸出規制を強化したほか、主に電気自動車(EV)や風力発電機のモーターなどに使われるネオジム磁石などの製造に関する技術の輸出禁止に向けた検討作業も進めている。

多くの関連企業は「中国リスク」を懸念して、中国に依存しないサプライチェーン(供給網)を構築する必要性に迫られている。そこでベトナムが新たな調達拠点として急浮上している。

◆韓国大手、24年に工場稼働

ロイター通信によると、韓国のレアアース磁石製造大手のスターグループ・インダストリアル(SGI)はこのほど、ベトナムにネオジム磁石の生産工場を開設する計画を明らかにした。24年に稼働予定で、25年までに年産5,000トン(EV用モーター200万台相当)を目指す方針だ。投資

額は8,000万米ドル(約117億円)の見込み。

同社は韓国・現代自動車やベトナム国産車メーカー、ビンファストなどに製品を供給しており、現在は中国と韓国に生産工場を構えている。ベトナム工場が稼働すれば、年産能力は約2倍に増加するという。同社の関係者は、世界的なレアアース供給の不確実性が高まっていると説明し、「今回の投資は、中国の規制に対する『対抗措置』の一環だ」と述べた。

今年6月の韓越首脳会談では、両国がレアアースの安定調達に向けた協力覚書を締結。「核心鉱物供給網センター」を開設し、韓国の採掘技術を活用して安定的な需給を維持する計画だ。

◆米アップルが生産多角化を要請

中国の磁石大手のバオトウINSTマグネティックは、ベトナム北部の省政府の承認を取得後、リース工場を稼働させる予定だ。同社は21年から米アップルのサプライヤーに加わっており、関係者は「米中の貿易摩擦を受けて、アップルから生産拠点を分散することを求められた」と明らかにした。ベトナムでの初期投資額は数百万米ドル規模だが、第2段階では自社工場建設のための追加投資を実施する可能性があるという。

オーストラリアの採掘会社オーストラリアン・ストラテジック・マテリアルズ(ASM)も5月、ベトナム・レアアース社から23年に100トンのレアアース磁石を輸入し、さらに長期の供給契約に向けた交渉を進めることを明らかにしている。

ベトナムを拠点とする業界コンサルタントは、「レアアースの採掘から下流の生産に至る磁石のサプライチェーンの全工程を備えているのは、中国を除けばベトナムが唯一の国だ」と説明。米中関係の悪化に伴い中国製品への依存リスクに警戒感を強めている自動車メーカーやIT・電子関連企業などは、ベトナムに拠点を置くサプライヤーとの関係を強化したい意向を示しているという。